第2019年度 KIS文化祭を実施

今年のKIS文化祭は大きな変化を遂げることが出来ました。昨年までは第一部を学内模擬店、第二部を豊川いのち愛ゆめセンターでの公演発表としていましたが、それらを統合し、今年は学内運動場にて同時進行の形で行いました。虫嫌いの生徒たちからの不満や照明設備を使えなかったこと等、様々な懸念もありましたが、何より梅雨の季節であることが一番心配されました。幸いにも当日、朝の通り雨が過ぎてからは、むしろ暑さが和らぎ最高の天候となりました。

香ばしい香りで来訪客を出迎えたのは学生、教職員による模擬店でした。教職員の用意したタッカルビのブースからは、文化祭の今年度テーマでもある「불타오르네（燃え上がる）」を表現するかの如く白い煙が常に舞い上がっていました。模擬店は中等部1年から高等部3年まで全学年が混合でチームを組みました。メニューを決めることをはじめ、食材の準備や調理、販売まで全て生徒たちが自ら行いました。タコせんべい、焼きそば、ポテトフライ等のお馴染みのメニューもあれば、韓国で人気沸騰中のソトックソトック（ソーセージと餅を重ねた串焼き）やチュロスといった、なかなか日本では味わえないメニューもありました。どのメニューも飛ぶように売れました。

運動場には大きく立派な舞台が設置されました。これはさいのもと自治会からお借りし、自治会の方に手伝っていただきながら生徒たちの力で一から組み立てました。舞台はKISダンス部のオープニングから始まり、ゲストの方々やクラスの出し物が続きました。去年の高2バンク（韓国の音楽番組ミュージックバンクのパロディー）に続き、高3バンクとして戻ってきた高3の舞台は今年が最後。どのチームよりも大きな声援が聞こえてきました。

梅雨の季節にも関わらず、去年の倍を上回る250名もの方がKIS文化祭に来てくださいました。舞台の設置から模擬店の準備や運営まで、行事の全進行を生徒たちが企画し運営した文化祭でした。

毎日のように学校に残り、汗を流しながら練習し、模擬店や設営のために邁進した生徒たちの情熱があったからこそ、今年の文化祭も大いに燃え上がりました。（学生支援部　姜豪峰）

図書館だより

KISの図書館には、一般の図書館ではあまり見ることのできない本が沢山あります。韓国の歴史から英語の小説、日本文学、古典から数学、科学、そしてあらゆる社会の人権問題に至るまで幅広い内容の本に触れることができます。先人たちの人格や知恵、真実を知る場として生徒の皆さんや先生方が図書室を自分なりに活用できるよう、「居心地よく集中できる」をテーマに4つの分野に分けて図書室を構成しました。一つは生徒の皆さんが自ら読書勉強できる自習スペース。1人～3人用に区切られています。2つめは授業スペース。落ち着いた環境で集中して授業に取り組むことができます。3つ目は進学スペース。大学受験問題や資料を使って個別スペースで勉強することもできます。4つ目は図書貸出紹介スペース。購入希望ｂｏｘに書き込まれたものは検討して購入し、新刊、寄付など新しい情報は図書Ｎｅｗｓで紹介します。

越境人となるためには、例え自分が作った境でなくともその影響を受ける場合、作られた境界線を乗り越えていく意思と正確な方法が必要となります。それが一体どのような方法であるのか、それを考える材料が沢山図書室にはあるような気がします。

権利の上に安住している人達は、その権利獲得のために費やされた人々の苦しみや歴史を知る必要があるでしょう。そして権利を侵害されている人は正しい権利獲得のために考え行動する必要があるでしょう。感傷や禍根を克服し、新しい歴史を作っていくために必要なのは、広い視野と分析力、そして自分の経験を客観的にとらえることの出来る冷静な視点であろうと思います。近年文学の意義が軽視されてきていますが、それは現実の認識を捉え、精神を導き、社会の変化を推進するという文学の機能を軽視しているということでもあります。ここ30年人々は本当に幸せであったでしょうか？もしそうでないとするならば、図書室の中でその答えを探してみるのもよいのではないでしょうか。皆さんが図書室に足を運び、積極的に活用し、それぞれ自分の夢や幸せを実現されることを願っています。（図書館担当　石村牧世）

今年で創部3年目になる KISサッカー部

2017年4月に、韓国からの留学生16名を中心にスタートしたKISサッカー部。変化と成長、そして進化を積み重ねてきた結果、「KISにサッカー部が健在する」という大きな誇りを今、監督として感じている。そのために努力してくれた全ての方々に感謝の気持ちを伝えたい。

振り返ってみれば、学校に心配と迷惑ばかりかけたことで困惑する嵐のような日々だったのではないかと思う。穴でもあれば入りたい気持である。だが今年、サッカー部として立派な卒業生3人を輩出したことで全て許してもらいたい。姜承完は関西学生サッカーリーグ1部である大阪経済大学に入学し、サッカー部に入部した。1回生でありながらBチームに抜擢され頑張っている。8月には総理大臣杯全国大学サッカー大会の出場権も獲得した。京都外国語大学に入学した姜寧奎はKISで身に着けたコミュニケーション力を活かし外国人との交流を深めながら、人気者として楽しい学校生活を送っている。2学期からサッカー部に入部するという。呉賢斌はブラジルへのサッカー留学を果たした。彼ら3人は本当に卒業できて良かったと思う。

留学生として生活は決して甘くなかったはず。

日本の文化や風習になじまず戸惑ったり、言葉や勉強が進まなくて諦めたり、色んな苦労があったと思う。しかし、苦悩しながらも我慢強く耐えきったことは、人生の大きい財産になったと思う。それはKISでなければとんでもない話。正直、全員が韓国に帰っていたかも知れない。昨年、KIS創立10周年記念シンポジウムがあり、KISの歴史を知り、これから歩んでいくべきKISの姿を心で感じた。KISの発展はこれからも無限だと思っている。

サッカーは競技の特性上、あまりにも自由度が高く、それ故に複雑で、不確実で、無限の可能性を持ったスポーツである。それ故に、優秀な選手と優秀な監督がいれば必ず勝つとは言えない。サッカーの面白さがそこにある。2018年ロシアワルドカップは20年ぶりに フランスが優勝を成し遂げた。2019年6月にはU－18世界サッカー大会で韓国は36年ぶりにベスト4と20年ぶりアジア圏国の決勝進出を果たした。残念ながら準優勝に終わったが素晴らしい歴史に残る大きな成果であったと思う。年月が経つにつれ諦めずに頑張れば力が付いてくるのが自然なものかもしれないが、KIS サッカー部は今年がとても大事な年である。今年の前期リーグでは部員不足で苦戦をしながら後期リーグに向かっているが厳しい状況である。ここまで辿り着くのに 様々な困難を乗り越えてきて付いた力と気持ちを大事にしながら来年度の新入生募集に 拍車をかけたい。そして、サッカー部が今よりどんどん大きくなって世界で活躍する日を夢見ている。KISの未来と可能性を信じて、挑戦を続けていきたい。

（サッカー部監督　姜英哲）

2018年スタディツアー：ピースワゴン in 西日本

毎年、冬休みに実施されるスタディツアー。これまでに台湾や香港、沖縄、済州島など地理的・文化的な境界を訪れ、その地の歴史や文化を学びました。政治や経済、生活習慣や宗教が複雑に絡み合う様子は、授業で学んだ断片的な知識を一つの流れにつないでくれました。

今年は広島、山口、福岡、長崎を車で走り、平和について考えるツアーを企画しました。原爆投下の爪痕が残る広島と長崎、強制連行やアジア侵略の歴史が残る山口と福岡。戦争の被害者とは？加害者とは？いろんなことを考えました。今回は車で各地を回るので宿泊地の名物料理を食べることにもこだわりました。また宿も参加者の意見を取り入れゲストハウス、マンション型の宿泊施設、カプセルホテル、フェリーといろんなところに泊まりました。おかげで安くて楽しい旅になりました。

（校長　金正泰）

原爆というものは多くの人々の生活、命を一瞬で奪い、生き残った人々も放射線による後遺症が残り、死ぬまで苦しみ生き地獄のような生活を送らないといけない。原爆とはそれほど残酷で恐ろしいものだと強く感じました。もう二度とこのような出来事を起こしてほしくない。広島・長崎が最後の被爆地であってほしいと強く願います。（高等部3年　崔真優）

他の資料館とは違い、被害の事実ではなく加害の事実を写真や証言などで訴える資料館に行きました。そこには日本人が中国人を虐殺している写真や韓国人を殺害し首を並べて見せ物にするなど、教科書に載っていない証拠が残っていました。（中略）歴史をしっかりと見つめようと自ら資料館を建て、守っている市民たちの勇気や行動に感動しました。

（高等部3年　盧愛奈）

今回の旅は主に平和について考えることが目的でしたが、私はご当地料理が一番印象に残りました。毎日どんな料理に出会うかがすごく楽しみでした。初日の広島では初の広島焼き。何個も食べた梅ヶ枝餅。朝ごはんに出てきた先生特製の目玉焼き。博多でのとんこつラーメン。小倉でご馳走になった中華料理のコース。もう幸せでしかなかったです。

（高等部3年　許美慧）

実践は思い通りにいかない！

私は第2期龍安寺参道商店街応援隊に参加しました。第2期応援隊の目的は「文化体験の多言語商品化」です。まず第1段階として、5月19日の商店街フリーマーケットで外国人に折り鶴体験をしてもらい意見を聞こうと考えました。私たちは放課後を利用して活動しました。実際に、折り紙というものを知らない外国人の立場に立って、どのようにしたら分かりやすく伝わるのかを3人で考え、試行錯誤を繰り返しました。最初は鶴を折る動画を撮って見ながら作るというアイディアが出ましたが、実際に作ってみると早すぎてついていけません。そこで、鶴の折り方の工程をたくさんのパネルに張り付けて、一つの工程ずつ完成形を見ながら折るようにしました。また、同じものをプレゼンテーションソフトでも作成し、iPadでも使えるようにしました。

さて、準備したものを持ってフリーマーケットに挑みましたが、なかなか外国人が集まってくれません。近寄って声をかけるのですが、帰ってくる答えは「No, Thank you」ばかり。そのうちに近くで遊んでいた子どもたちや大学生たちが集まってきて、鶴や手裏剣などを作って一緒に楽しく遊んでくれました。私たちが作成したツールも使ったには、使ったのですが、全員が日本人だったのでコリア語や中国語、英語は役に立ちませんでした。

今回、この活動を通して学んだことは積極的にアピールすることの大切さです。私たちが何週間も頑張って作業をしていても、フリーマーケットで会う外国人観光客たちと一瞬の出会いが勝負になります。私たちの努力を無駄にしないためにも、もっと積極的に話しかけて、アピールすべきだったと思います。またツールを作るのと同じくらいどのようにアピールするかにも工夫が必要だと思いました。

今回の経験をこれからの大学受験や将来に活かしたいと思います。

（高等部3年　盧億心）

KIS English Camp

コリア国際学園では、毎年KIS English Campを実施しています。小学校5年生から中学校3年生までが対象で、二日間英語だけで、楽しい時間を過ごします。普段、学校で学んでいる英語スキルをレベルアップする機会です。クラフトづくり、ゲーム、料理体験、ネイチャーウォークなど楽しい企画がいっぱいです。

KIS English Campは、コリア国際学園の生徒たちだけでなく、入学を希望する小学生や交流のある中学校の生徒たちも参加しています。また最近では韓国からの参加者もいます。英語の実力を伸ばしたい方ならどなたでも参加できます。参加者たちは普段の学校の枠を超えてつながり、新鮮な環境で新しい自分を発見することができるでしょう。前回は「世界で一番居心地がいいユースホステル」に選ばれたこともある京都の宇多野ユースホステルで開催しました。参加者たちは空気がきれいで自然いっぱいの宇多野で、スマートフォンやビデオゲームでは得られない人と人とのコミュニケーションスキルを身につけることができました。言うなれば、学校で学んだ英語をアウトプットする場だと言えます。児童・生徒たちは学校で学んだ英語を使う機会があまりありません。ですから、英語はあくまでも知識として定着するだけで、試行し、応用するなど、活用する場もありません。KIS English Campはそのような場になることでしょう。

KIS English Campは「英語だけ」で実施されますが、内容は多様です。クラフト活動ではドリームキャッチャーを作ったり、タイカレーを作ったりしました。ドリームキャッチャーを通じてアメリカのネイティブインディアンの文化に触れましたし、チキンを煮込んだタイのマンゴーカレーはエスニックな味がしました。様々な文化や習慣に触れることは、異文化に対する寛容性を高めます。とっても楽しいKIS English Camp、たくさんの方の参加をお待ちしています。

（英語科　ウェン）

哲学カフェ

哲学カフェは、決められたテーマについてお茶を飲みながらゆったり・まったりとみんなで考えてディスカッションし、それぞれの考えを深め、共有する場です。最近は高校生の参加者が多いですが、基本的には老若男女誰でも参加できます。先生・生徒や、年上・年下などは関係なく全員が〝参加者〟として対等な立場でディスカッションしています。

哲学カフェでは「他の人を傷つけない」「人の話しを聞く」という2つのルールを設けています。当たり前のように感じる人もいるかも知れませんが、当たり前のことに限って見過ごしていることって、たまにありますよね。なので、哲学カフェでは参加者に常にそれを意識してディスカッションして貰っています。

最近は「なぜ○○をしなければならないの？」というテーマで哲学カフェを行いました。個人的には前回の哲学カフェでは学生の参加者が多かったため、「数学や古典などはなぜ学ばなければいけないの？」といったような、学業に関する疑問が多く出ると思っていました。もちろん学業に関する疑問も出てきましたが、予想に反して「結婚をすると名字を変えなければならないの？」や、「安楽死・尊厳死は？」、「なぜ人は空を飛べないの？」など、多様多種な疑問が出てきました。考えたこともないような疑問が出てきて、みんなで盛り上がった楽しい哲学カフェでした。

哲学カフェの一番の魅力は、それぞれが自分では気付けなかったことや、いつの間にか忘れてしまったことにみんなで一緒に気付いていける所だと思います。1回の哲学カフェで10のことを学んでいるような気がします。（笑）そして、参加者全員にとってくつろぎながら自分に正直になれる場所になってほしいと思いながら、企画・運営をしています。

この文を読んでいるそこのアナタ！そんな哲学カフェに一度来てみませんか？「私／僕は○○だから行きにくいな…」と思うことはありません。哲学カフェはどんな人でも歓迎します。「来てよかった」と思っていただけるよう実行委員一同、努力いたします。

（哲学カフェ実行委員　趙仁実）

フィジーレポート

こんにちは　高等部一年の上田稜です。

まず初めに僕は今フィジー共和国という南国にいます。この国にはいろいろな国からの観光客や留学生が沢山来ています。初めはフィジーに留学することがあまり乗り気ではなくフィジーに来てからも楽しめていませんでした。しかも、フィジーには中国人がたくさんいるので自己紹介の時に「アイムジャパニーズ」と言っても何回も「ニーハオ」と言ってくるのでその都度、言い直していました。僕が日本人だということを理解してもらうのに1か月くらいかかりました。今では学校で同級生とすれ違う時にはさり気なく「こんにちは」と挨拶をしてくれたり、「日本には忍者がいるの？」と話しかけてくれたりします。それだけで結構うれしかったりします。

段々フィジーでの生活にも慣れてきて、色々な学校行事にも参加するようになりました。例えば体育祭や部活動、レポートの発表会とかです。中でも体育祭はすごく楽しかったです。体育祭は5チームに分かれて色んな競技をします。選抜された人は競技に出て、選ばれなかった人は自分のチームを応援する感じです。僕は残念ながら選抜されなかったですが、応援する側もなかなか楽しかったです。ダンスをしたり、歌をうたったり、各チームとても個性的でした。

フィジーに来てから「普段通り」の大切さや、何もないからこそ何かが見えてくる感覚など、いろいろな経験をしました。だけど、こんなに楽しい日々もあと数か月で終わってしまうので悔いの残らないように楽しく真面目に頑張っていきたいと思います。

（高等部1年　上田稜）

近隣小学校との交流

ＫＩＳでは毎年、近隣小学校との交流を大切にし、たくさんの交流行事を実施しています。２０１９年６月１４日に実施されたコリアタウンフィールドワークでは、ＫＩＳの中等部３年生・高等部１年生と、郡山小学校５年生が参加しました。

当日は、小学生が１０グループに分かれ、それぞれのグループにＫＩＳの生徒が２人ずつ入り、ＪＲ茨木駅から鶴橋駅まで交通機関を使ってグループごとに移動をしました。出発する前に、ＫＩＳの学生会から小学生に、電車のマナーについて分かりやすくイラストを使いながら説明し、移動するときには、ＫＩＳの生徒が率先して誘導している姿が見られました。

現地でのお店の人へのインタビューでは、積極的に店員の方に話しかけ、小学生から先に質問をさせてあげている生徒もいました。そのような行動からか、最初は緊張していてあまり話さなかった小学生たちも、次第にＫＩＳの生徒に話しかけるようになっていました。

交流が終わるときには、ＫＩＳ生がすっかり慕われていて、小学生に囲まれて会話する様子が見られました。小学生からは「また会いたい。」との言葉もいただきました。

今回のフィールドワークは、ＫＩＳ生にとっては、在日コリアンについての歴史を学ぶとともに、中等部・高等部としての責任感も養われるような行事だったのではないかと思います。これからも、近隣小学校との交流を継続し、相互にとって有意義な行事となるように努めていきたいと思います。

（学生支援部　向井明日香）

高等部1年生　カナダ研修

毎年9月末、高等部1年生は2週間のカナダ研修に旅立ちます。多くの生徒がこの研修で初めて海外生活を経験します。カナダ研修は自立心を培う素晴らしいチャンスと言えます。

日本の学校教育は海外に比べて、消極的で、生徒たちは先生からの情報をただ受け入れるだけの傾向があります。ＫＩＳの生徒たちには、カナダ研修を通じて他の国の生徒たちが、どのように学習をしているのかを見てほしいです。違う形の教育を経験することで自分たちの興味・関心を世界へと広げることができます。これは生徒たちの学びにきっと良い刺激になると思います。先生からの答を待つのではなく自ら考え答えを探すなど、主体的に学びに向き合う姿勢を育てます。これらは21世紀に求められるスキルだと言えます。

昨年２０１８年、生徒たちはバンクーバーのサンシャインコーストに行きました。そこで彼らはエルフィンストーン中学校に通いながら、２週間のホームステイを経験しました。学校では演劇の授業、テクニカルワークショップ授業、さらには機械修理の授業など、ＫＩＳでは学べない授業にも参加しました。

また生徒たちは老人ホームや小学校を訪問し、日本の歌、折り紙、けん玉、遊びなどの日本の伝統文化を披露しました。多くの生徒たちにとって全てを英語で表現し、プレゼンテーションするのは初めての経験でした。

短い時間でしたがホームステイの経験もとても貴重なものでした。生徒たち、またホストファミリーにとっても忘れられない貴重な経験だと思います。

２週間のカナダ研修は英語以外にもたくさんのことを教えてくれました。チームワークスキル、適応力、葛藤を解決する力。生徒たちの今後の学校生活にきっと役に立つと思います。

２０１９年度のカナダ研修はトロントです。

（英語科　ウェン）

SDGs高校生フォーラムに参加

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟主催の「ＳＤＧｓ高校生フォーラム」が２０１９年3月26日から3泊で、東京で行われました。参加校は中国からはBeijing 57 High School'、韓国からはCheongna DALTON School、日本からは宮城県仙台二華高校、昭和女子大学附属昭和高校、晃華学園高校、愛知県立千種高校、そしてＫＩＳが参加しました（ＫＩＳ代表者：徐昊範君、安原海咲さん、チージョン チソムさん）。

２０１５年に17のゴール・１６９のターゲットからなる持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：ＳＤＧｓ）が国連で採決され、平和で持続可能な社会を担う次世代の育成とアジア諸国との友好関係の構築を目的として、東アジアの未来を担う日中韓3か国の高校生を対象に本プログラムが実施されました。今回はＳＤＧｓの中でも特に「持続可能なまちづくり」、「多文化共生」を中心テーマに、グローバル、ローカルの両方の視点で、持続可能な社会の在り方について学び、英語で議論、発表しました。

「持続可能なまちづくり」では、東京都豊島区雑司ヶ谷地区にフィールドワークに行き、「雑司ヶ谷鬼子母神」をはじめ、江戸時代から続く歴史と文化のまちである同地区を歩きました。自然や文化の多様性を守ることや、次世代につないでいくために、行政だけではなく地域の様々なアクターがまちづくりに関わり、行動していることを学びました。

「多文化共生」では、在日コリアンをはじめ様々な国籍・民族の方々が暮らす神奈川県川崎市桜本地区に赴き、「川崎市ふれあい館」の取り組み（識字教室など）を学習したり、在日コリアン1世のハルモニたちと交流したりしました。フィールドワークや交流を通して、ヘイトスピーチや歴史問題など多文化共生社会を実現するために解決すべき課題について学び、多文化共生の在り方を考えました。

フィールドワーク以外はほぼホテル会場に缶詰め状態でＳＤＧｓについて考える4日間でした。このフォーラム後、ＫＩＳにもユネスコ委員会が誕生し、持続可能な社会を目指す取り組みを本格的に始めました。ワクチンを買うためにペットボトルのキャップを回収したり、UNIQLOが行っている「服のチカラプロジェクト」に参加し、難民キャンプの子どもたちのために子ども服を集める活動を行ったりしています。地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）取り組みをこれからも積極的に行っていきたいと思います。

（学生支援部長　金明佳）

Have you ever heard about KIS読書会?

Ｈｅｌｌｏ！ 高等部3年生の金玟貞です。みなさんは、〝読書会〟についてご存知ですか？

読書会は、ある本を読んできてみんなで集まり、その本について話し合う会です。基本は、2週間に1回程度のペースで行っています。一人ずつ順番に本を推薦して、その本を読み、みんなで意見交換をしています。現在のメンバーは、私、張奈永、張奈生、趙仁実、盧愷心、金正泰校長先生、平野先生の7人です。

読書会が始まったのは、私の思いがけない一言からでした。その一言は、「みんなで自分の意見を共有できる討論会とかしてみたい！」でした。当時、私は高等部2年生で、日本語の授業では、詩や小説などの文学作品を読んで、自身の感想や疑問点、また、気づいたことなどをみんなに共有するということをしていました。準備にはもちろん時間がかかりましたが、話し合いはとても楽しかったです。同級生の張奈永さんと金正泰校長先生と話をして、「本を読んでその本について討論しようか！」となりました。こうして読書会が開かれることになったのです。

私は普段読書を全くしない人間で、本を開いて3行読むとすぐ寝てしまうということが少なからずありました。読書会を始めたのには、読書を全くしない自分に危機感を抱いたからという理由もありました。そんな私が、2週間に1冊本を読むようになったことは、私事ながらも成長だなと思います。また、普段からよく手にする小説だけではなく、自己啓発本や新書など様々なジャンルの本をみんながおススメしてくれるので、本の世界も広がり、新たな教養もたくさん得ることができました。そして、同じ本を読んだけど意見が違うことがあったりすると、「そんな考え方もあるのだ」と新しい発見もありました。

あなたの好きな本・読みたい本、知りたいです！ぜひ読書会にて、一緒に話し合いましょう！

（高等部3年　金玟貞）

ドンアリ活動

今年度から毎週金曜日7時間目に特別活動の時間を設けました（対象：中等部1年から高等部1年）。ＫＩＳは放課後のクラブ活動があまり活発ではありません。数年前からサッカー部と伝統芸術部、テコンドー部、軽音楽部が地道に活動している程度でした。ＫＩＳは生徒の自発性を尊重し、やりたいことがあれば、それを実現することが可能な学校です。クラブの数自体は多くはありませんが、仲間を集めて「創部」することを生徒たちに薦めてきました。しかし、それもなかなか難しく、放課後になると生徒も家に帰り、さみしい雰囲気が漂っていました。何とか活気のある、生徒が楽しく騒がしく活動していた放課後を取り戻すために、逆転の発想で、今年度からは始めからクラブを作ることにしました。特別活動の時間が始まり約2か月が過ぎましたが、今では放課後だけでなくＫＩＳ自体が活気づいたような気がします。

今年度から新たに創設されたクラブをご紹介したいと思います。まずは、バスケットボール部です。中等部3年生男子を中心に、高等部2・3年の先輩たちに試合で勝つことを目指し、日々練習に励んでいます。バスケットボール部は自発的に特別活動の時間以外にも体育館で一生懸命練習しています。

文化祭でもカッコいいダンスを披露してくれたダンス部。文化祭が終わってからも、豊川フェスタや多民族フェスティバルなどの地元地域のイベントでダンスを発表するために、継続してみんなで切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。

特別活動の時間だけではなく、休み時間や放課後毎日卓球台を広げ、部員以外の参加者が多く、意外に人気の高い卓球部。練習をしているというよりかは遊んでいるようにしか見えませんが、本当に楽しそうに、学年男女の別なく微笑んでいる姿を見ると、学校に一台しかない卓球台に切なさを感じます。寄付して下さる方、いつでもお待ちしております。

最後になりますが、ＫＩＳの生徒や教職員にささいな幸せを運んでいるＫＩＳガーデン部。部員はたった3人ですが、船越先生のご指導の下、6月下旬にはじゃがいもの収穫を行いました。これからも作物を育てて、皆さんにささいな幸せをおすそ分けしていきます。

目標を持ち、仲間と共にぶつかり合いながらも頑張ることの素晴らしさを、この特別活動の時間を通して再度認識することができました。

（学生支援部長　金明佳）

多言語スピーチ大会

従来の第二言語教育は英語でした。しかし、２０１９年現在、母語だけを話す人も少なくなりましたし、母語以外もう一つの言語だけでいいと思う人も少なくなったことでしょう。

世界には現在、約7千種類の言語が存在しているとされています。その中から、１００万人以上が使用する言語は約２５０種類、それから、世界の人口の半分はたった23種類の言語しか話しません。23種類。その中から、4、5ヵ国語ぐらいなら挑戦できそうな気がしませんか。「英語・日本語・コリア語・中国語・フランス語」コリア国際学園ではこの５つの言語を学ぶことができます。

文字と言語、それをともにもち、多言語を駆使できる人は、本当に恵まれた人生を歩んでいると言っても過言ではありません。多くの言語を話せることは、何よりも強みです。その意味で「３言語スピーチ大会」は、それこそ未来志向的な大会です。

２０１３年にコリア国際学園と関西学院千里国際との共催で始めたこの大会は、「日本語・コリア語・英語・中国語」の中から、中学生は2言語、高校生は3言語を選んでスピーチをします。その中には得意な言語もあれば、苦手な言語もあります。しかし、大会を準備していくうちに、苦手だった言語も一定の水準まで上達するので、苦手意識を克服することができます。

今年で7回目を迎えるこの大会を準備し、指導しながら、多くの生徒が苦手だった言語を克服し、上達していく姿を見てきました。これからは、選択できる言語をさらに広げていきたいと思っています。「３言語スピーチ大会」のような成長と実力につながる大会をもっと企画していきたいと思います。様々な言語を駆使し、世界で活躍できる人材育成を目標にこれからも頑張っていきます。

（教務部長　金泯芝）

挑むことをためらわないこと

「達成感を一度でも味わったことのある者は、その大きさに構わず、次の挑戦にもためらうことなく挑戦する。」

挑戦について、コリア国際学園ではこう思っています。

中学校時代、高校時代はなかなか達成感を味わう事ができないかもしれません。しかし、達成感は非常に重要で、生きるための、成長するための原料なったりもします。コリア国際学園では、必ず達成できる目標を設定し、生徒たちに挑戦を促しています。種類や大きさは関係ありません。一度でいいのです。達成したという気持ちさえ味わうことができれば。

その達成感を味わう手段として、コリア国際学園では年に数回、あらゆる検定試験を生徒たちに勧めています。「韓国語能力試験」、「英語検定試験」、「日本語能力試験」、「数学検定試験」、「漢字検定試験」など、頑張れば必ず取得できる検定試験に頻繁に挑戦させることによって、挑戦することをためらわない習慣をつけさせたいからです。この結果は、大学入試のアピールポイントとして活用することもできます。

検定試験前になると、生徒たちが自習的に放課後補習をします。そのため、教師たちは検定試験の問題を分析し、検定試験に必要な知識を共有します。試験の結果が発表される日は、重大な何かの発表をまっているかのような雰囲気です。本当に頑張ったからこそ、結果を待ち遠しく思うのです。時には思わしくない結果で、落胆する生徒もいますが、その時の気持ちもまた「次はもっと頑張って絶対合格してやる！」という後押しになります。

挑戦というものは結果に問わず、極めて価値のある行為です。コリア国際学園で、様々なことに挑戦し、成長していきましょう。

（教務部長　金泯芝）